

2025年3月10日

JRイン函館

語りつぐ青函連絡船の会

JRイン函館にて「青函連絡船の銅鑼^{どら}の録音放送」が復活！

ご希望のお客様には銅鑼鳴らし体験も♪

JR北海道ホテルズ株式会社が経営・運営するJRイン函館（函館市若松町12番14号 総支配人：笠原 正吾）では、NPO法人語りつぐ青函連絡船の会の協力のもと、2025年3月13日（木）より青函連絡船の出港時に流していた銅鑼や別れのワルツなどの録音放送を復活させるほか、ご宿泊のお客様向けに銅鑼鳴らし体験を開始いたします。

今回復活する録音放送は、1988年3月13日の青函トンネル開業まで活躍した青函連絡船摩周丸にて、1970年5月から流していた本物の音源（8トラックテープ）を複製したものです。また、運航当時に使用していた銅鑼と同等の汎用品を使って銅鑼鳴らしをご体験いただけます。

懐かしい「青函連絡船の銅鑼の録音放送」を、JRイン函館から出発されるお客様へホテルスタッフが旅の安全を祈念して流します。

今後もJRイン函館では、「鉄道と青函連絡船の記憶を刻むホテル」として、地域の歴史や文化に根差した心温まるサービスを提供してまいります。



函館市青函連絡船記念館摩周丸



銅鑼鳴らし体験のイメージ

<銅鑼の録音放送ならびに銅鑼鳴らし体験概要>

- ・開始日：2025年3月13日（木）午前10時～正午頃 ※ご希望に応じて対応
- ・体験場所：JRイン函館1階ロビー
- ・体験内容：「銅鑼の録音放送」および「銅鑼鳴らし体験」をお楽しみいただけます。

ホテルスタッフにお気軽にお声掛けください。

<備考>

- ・銅鑼鳴らし体験のイメージ画像は、函館市青函連絡船記念館摩周丸で撮影されたものです。ホテルロビーに乗船員が着用した制服等の展示はありません。

- ・ロビーの混雑状況により、銅鑼鳴らし体験をお待ちいただく場合がございます。
あらかじめご了承ください。

<『銅鑼の録音放送』について>

青函連絡船の出港前の銅鑼は1970年5月から録音テープによる放送に切り替えられました。録音テープには、銅鑼の音のほか、別れのワルツ、船内アナウンス等が納められています。8トラックテープならではの懐かしい音の響きをお楽しみいただけます。

<『銅鑼』について>

サイズ：直径42.0cm 銅鋼合金製（汎用品）
※青函連絡船の運航当時も汎用品を使用しています。

■NPO 法人語りつぐ青函連絡船の会について

函館港に係留・保存されている摩周丸を産業遺産として再評価し、青函連絡船の歴史と文化を後世に伝える活動を行う。1999年9月結成、2002年3月NPO法人化（特定非営利活動法人）。創立理事長は元国鉄青函局長で津軽丸型連絡船を設計した石黒隆氏（2021年3月死去）、現理事長は音楽評論家・作詞家の湯川れい子氏。2003年7月よりJR函館駅2階で「船と鉄道の図書館いるか文庫」を運営、2008年4月より「函館市青函連絡船記念館摩周丸」を運営（指定管理者）。摩周丸が2023年7月「ふね遺産」に認定。

住 所：函館市若松町34-8-1002
お問い合わせ先：0138-27-2500（摩周丸）

■JRイン函館について（2020年5月18日開業 支配人 宮川 岳三）

JR北海道ホテルズ株式会社が経営・運営する宿泊特化型ホテルである「JRイン函館」は、「鉄道と青函連絡船の記憶を刻むホテル」です。1階ロビーに青函連絡船の写真パネルを展示しているほか、12階には青函連絡船の1/100スケールの模型や各種備品をご覧ください。また、函館駅から青函連絡船に繋がる引込線跡地に建っており、地理的にも青函連絡船に馴染み深い唯一無二のホテルです。

JR函館駅隣接という抜群のロケーションと「すべては心地よい目覚めのために」というJRインのブランドコンセプトを体現する空間により、お客様に快適な旅のひとつを提供いたします。

住 所：函館市若松町12番14号
お問い合わせ先：TEL 0138-22-2333



■報道関係の方からのお問い合わせ先

JR北海道ホテルズ株式会社 マーケティング部 原田・川原・安保
TEL 011-251-6325（直通 平日9時～17時半）